

業 務 再 点 検 結 果 報 告

部署名	横浜植物防疫所成田支所第1航空貨物担当
部署の業務内容	航空貨物として輸出入される植物類の検疫業務

項 目		対応は 十分な	点 検 結 果 の 概 要
基本的 な視点	総論	消費者、生産者、事業者など多様な国民各層からみて、丁寧・誠実・親切的な対応がなされるよう、部署内の業務において何らかの取組を行っているか。	輸出入者、通関業者等からの直接又は電話照会等での要望について、受付窓口の対応や検査時の受検者対応を迅速・的確且つ丁寧な対応をするよう心がけており、この旨職員へも周知している。また、当担当の検査業務を見学する消費者団体、農協関係者等には植物検疫について丁寧に説明すると共に、質問があった場合は十分理解が得られるよう回答するなど対応を心がけている。植物検疫に係る協議会における植物検疫に関する説明や同協議会出席者との意見交換時の要望に対する改善策等の取組みが、よくやっているとの好意的な意見も寄せられていることから、当担当の対応は、理解が得られていると考えている。
		国民各層からそれらの取組が適切であるとの評価を受けているか。	
	苦情、要請等への対応	国民からの苦情、要請、内部告発、その他の情報提供について、対応が放置されたり、不誠実との批判を受けた事例があるか。	苦情・要請内容について聞き取りし、当担当内で対応方針を作成すると共に、必要に応じ支所長又は上部機関とも協議した上で対応方針に従い、相手からの要望等に対して十分説明し理解が得られるよう、適切に対応している。 なお、平成21年3月開催した協議会において要望があった検査官の増員については「増員については要求しているが難しい状況にある。」として回答し、要望には答えられていない。
		苦情、要請、内部告発を受けた場合の対応の方法はルール化されているか。	
		そのルールについて、改善すべきとの声は寄せられているか。	
		対応がルール化されていない場合、国民の苦情、要請への対応が公平になされている考えられるか。	
	政策の目的・効果に関する説明	国民に政策目的や政策効果の説明を適切に行い、その結果を施策に適切に反映するため、何らかの取組を行っているか。	年2回「植物検疫に係る協議会」を開催し、輸出入者、通関業者等へ植物検疫に関する業務の説明を行い周知を徹底するよう働きかけている。また、緊急を要する事項の場合はその都度、説明会を開催し説明している。(PQ-NETWORK関係説明会) 本協議会において、輸出入者、通関業者等からの意見要望等の交換を行っており、対応可能な要望については適切な対応を行っている。
		政策について国民との意見交換を適切に行い、その結果を施策に適切に反映するため、何らかの取組を行っているか。	
		国民各層からそれらの取組が適切であるとの評価を受けているか。	
		政策目的や政策効果の説明、意見交換の方法、その結果を施策に適切に反映する方法はルール化されているか。	
		そのルールについて、改善すべきとの声は寄せられているか。	
		ルール化されていない場合、国民全体の視点で見て、業務が公平に遂行され则认为られるか。	
		説明会や意見交換会において出された意見について、対応が放置されたり、不誠実との批判を受けた事例があるか。	

	業の振興と消費者の利益	部署内の業務において、特定の分野、団体の指導、監督業務、もしくは特定の分野、団体と深く関係する予算、税制等に該当する事項があるか。		輸入者等の通関手続きの迅速化、検査の簡素化を求める要望からは相反することは理解しているが、病虫害の侵入・まん延防止するために植物検疫業務は必要であり、この業務を的確かつ円滑に行うことが使命として業務を行っている。
		業の振興と消費者の利益が一致しないという認識に立ち、日々業務を行っているか。		
		現在の所管の業界の状況からみて消費者と業界の利害が一致しないことがあるか。		
食の安全業務についての点検	総論	部署内の業務の中に、食の安全に関連する事項があるか。		輸入植物検査において検疫有害動物が発見された場合、生鮮青果物、穀類、豆類、嗜好香辛料等食品に対する植物検疫くん蒸業務が該当する。
	業務の見直し	BSE発生後業務の見直しを行ったか。		検疫業務の点検・見直しを行い、支所内討議を経て上部機関に検討を依頼。植物検疫くん蒸を行う場合は、農薬取締法に従い、農薬残留基準を超えないよう輸入者、防除業者を指導していることから、健康への悪影響が出ないよう未然防止していると考えている。
		見直した業務について、その後、定期的な検証を行ったか。		
		部署内の業務は、国民の健康を守ることが何よりも重要であるという意識を持って行われているといえるか(産業振興サイドに偏っていないといえるか)。		
		部署内の業務は、国民の健康への悪影響発生の未然防止の観点から行われていると言えるか(問題・事故が発生した後の被害拡大防止に偏っていないか)。		
		その措置は科学的な知見や証拠に基づいて業務が行われているといえるか(根拠のない判断をしていないか)		
		フードチェーンの川下への影響を防ぐ観点からの措置はとられているか。		
		その措置は科学的な知見や証拠に基づいて業務が行われているか(根拠のない判断をしていないか)。		
		他部署の実施する食の安全業務について、おかしいと思う点があるか。		
		おかしいと思う点がある場合、他の部局に対し何らかの働きかけを行っているか。		
		第三者(マスコミ、消費者、他省庁等)から、点検対象とした食の安全業務と他の部署(省内、省外を問わず)が行う食の安全業務との連携ができていないと指摘されたことはあるか。		
	影響可能性の確認	食の安全に関する業務でないと言われているものの中で、食の安全に影響を及ぼす可能性のある業務は本当にはないか。		食品の温度管理についての指摘に対して、施設整備費により検査場搬入・搬出通路への底の設置、各検査室についてはクールチェーン化に伴う空調機器を設置するなど対応してきた。

	ご意見の内容		ご意見を踏まえた業務等の見直し・改善状況
農林水産省へお寄せいただいたご意見の業務への反映	PQ - NETWORKの更改に伴う合格通知に時間がかかりすぎているとの指摘		検査終了後、速やかに合格通知するよう改善。
	平成21年3月開催した協議会における検査官の増員要望		増員については要求しているが難しい状況にある旨回答。